2021年8月25日(水) 毎日新聞 山口版

被災地の聴覚障害者描く

映画 きこえなかったあの日

萩で県内初上映

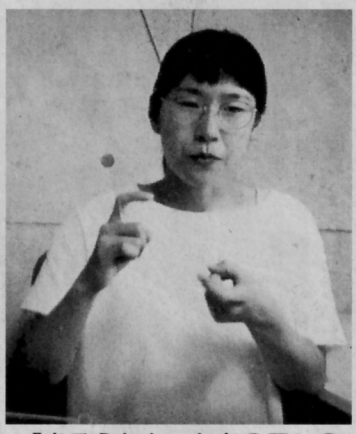
大規模災害の被災地で聴覚障害者の姿を追ったドキュメンタリー映画「きこえなかったあの日」が、萩市東田町の萩ツインシネマで上映されている。自らも生まれつき耳が聞こえない今村彩子監督(42)が東日本大震災や熊本地震、西日本豪雨などの被災地で撮影した。今村監督の作品が県内で上映されるのは初めてで、22日の上映前に披露されたビデオメッセージでは「映画に出てくる人たちから何かを感じてくれたらうれしい」と期待を込めた。【遠藤雅彦】

自身も障害 今村彩子監督

名古屋市在住の今村監督は2011年の東日本大震災が発生した11日後に宮城県に入った。映画では、聴覚障害者が避難所でテレビが音声で流す災害情報が分からず、警報のサイレンが聞こえないことにも戸惑ったり、手話通訳がいないため役所で罹災(りさい)証明の手続きができなかったりするなど、孤立する姿を浮き彫りにした。

一方、16年の熊本地震では避難所に手話通訳が派遣され、18年の西日本豪雨では被災した広島県坂町で聴覚障害者のボランティアが土砂の撤去に汗を流す姿もとらえた。20年からの新型コロナウイルス感染拡大では、理容店を営む聴覚障害者が手話通訳者の助けを借りながら休業の協力金を申請するなど、聴覚障害者への理解が少しずつ進んでいる様子も映し出す。

上映は9月3日まで、同4~17日は今村監督による日本縦断の自転車の旅の記録「Start Line」(16年)、18日~10月1日は今村監督とアスペルガー症候群の友人との交流を撮影した「友達やめた。」(20年)を上映する。3作品を連続で上映するのは宮城県に続いて2カ所目で、同シネマの柴田寿美子支配人は「音が聞こえないという違う感性で撮られた作品を味わってほしい」と話している。問い合わせは同シネマ(0838・21・5510)。



「きこえなかったあの日」の上映に合わせ公開された今村監督のビデオメッセージ

西日本豪雨で被災した広島県坂町でボランティアをする聴覚障害者たちを映した「きこえなかったあの日」の一場面

©2021 Studio AYA